

大坂城ゆかり “加茂町大野の残念石”を守ろう！！

加茂町大野の残念石

京都府木津川市加茂町大野の勝手・春日神社下の府道(天理加茂木津線)に面した河原には、2~4m程の花崗岩の切り石(約15個)がひと固まりとなっていて残されています。また、木津川・赤田川樋門付近においても約50個の切り石が残されています。これらは、徳川幕府が大坂城を修築した際に、藤堂高虎(とうどうたかとら)によって石垣に使用するために切り出された巨大な石材の一部で、切り出された石材は、木津川に降ろし舟で木津川・淀川をくだり大坂城まで運ばれました。一方、大坂城へ運ばれなかった石材は、何らかの事情で大坂城へ行けなかった(備蓄用に集積との説も)石で残念石と呼ばれています。



「昭和50年八月、赤田川の護岸改修のおり、工事現場から約70個の方形に切られた巨石が発見された。表面には高さ・寸法・個数・石切場か集積場での検査日を示すと思われる日時や符号も刻まれており、当初は豊臣秀吉が大坂城を築城した際、切り出された残念石かと思われた。しかし、その後、残石と大坂城の石垣の詳細な調査がおこなわれ、残石の符号と一致するものが、大坂冬の陣後に徳川幕府の手によって築かれた石垣に見られたのである。(中略)二代将軍秀忠は、元和五年上洛のおり自ら高虎をともなって大坂城を見まわり、高虎をこの修築の普請総指図役(ふしんそうさしやく)に任じたという。高虎は長年培った普請の手腕を同時期に賜った加茂地域を舞台に、さっそく発揮するのである。」(加茂町史第二巻より抜粋)

【藤堂高虎(とうどうたかとら)】

高虎とは安土桃山~江戸時代初期の大名 藤堂高虎。高虎は伊賀上野城、津城、今治城、伏見城などの築城を手掛け、「城作りの名手」と呼ばれています。“宗国史(高虎年譜)”には、元和6年(1620年)に高虎自身が90日間、加茂の常念寺に滞在して石切りを指導したと記されており、加茂で切り出された石材は、大坂城京橋口西側の外堀内外各25間、内堀の一部、西空堀の本丸側で使用されています。加茂町兎並には縦254cmもの巨大な高虎の供養碑が建立されており、これは全国にある高虎の墓6カ所のうちの1カ所です。



【各地に寄贈された大野残念石】

大野の残念石は、各地に寄贈され、あじさいホール(加茂町)、常念寺(加茂町)、在土高虎公園(滋賀県甲良町-高虎生誕地)、枚方公園(大阪府)に各1個、山城郷土資料館に2個、保管展示されています。

【各地の残念石公園】

残念石を展示した公園が全国に数カ所あります。写真右は小豆島にある「大坂城残念石記念公園」で、園内には大坂城残念石資料館も併設されています。



【小学生 加茂の遺産めぐり】

毎年、市内小学生を対象に、歴史遺産探訪として大野残念石を案内し、子供達の郷土意識の向上や歴史学習意欲に寄与する活動に役立っています。多数の巨大な残念石の存在に、皆が一様に目を輝かせて感動しています。

埋められる？大野残念石

現在進められている国・府事業計画「赤田川樋門改修 及び 府道天理加茂木津線バイパス整備」に伴い、大野の残念石は支障物と見なされ、刻印が確認されている残念石(3個程度)のみを保存する予定ですが、残りのほとんどの残念石が地中に埋められるかもしれません。大河ドラマ「真田丸」で大坂城が更なる注目を集める中、普請総指図役(大坂城修築の総責任者)藤堂高虎による大坂城ゆかりの大切な遺産を喪失することに対しては、木津川市民のみならず、大きく失望される日本国民は多数と察します。

この貴重な財産を保護すべく皆様のご支援をお願い致します。

NPO 法人 ふるさと案内・かも

(資料参考：加茂町史第二巻、木津川市及び木津川市観光協会HP)